

MIST 学会 会員各位

この度、第 19 回関東 MIST 研究会を 2024 年 10 月 5 日(土)に大手町プレイス ホール&カンファレンス(東京都千代田区大手町)で開催いたしました。関東 MISTらしい企画をと考え、ハンズオンを交えた講演やメディカルスタッフの参加を促進する新しい試みを企画しました。結果として 113 名の参加者をお迎えし、無事に会を終えることができました。これもひとえに皆様の多大なるご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

共催セミナーは、埼玉県を代表する 2 名の先生にご登壇いただきました。大島正史先生(川口市立医療センター整形外科部長)には「骨粗鬆症と脊椎外科」をテーマに、小林俊介先生(埼玉慈恵病院整形外科部長)に座長を務めていただき、骨粗鬆症性椎体骨折の保存治療からセメント注入型椎弓根スクリューを用いた再建術まで、ご自身が経験された症例をもとに理路整然とした解説をいただきました。また、片柳順也先生(獨協医科大学埼玉医療センター整形外科准教授)には「Bone health と脊椎手術:医師として、患者として、患者家族として考える最適な治療選択」をテーマに、大下優介先生(昭和大学横浜市北部病院整形外科准教授)に座長を務めていただき、医師患者双方からの視点に立った脊椎治療のお話をいただきました。先生が脊椎外科医を志した理由や、どのようにしてトップレベルの医師となったのか、その人生に触れることで多くの参加者が感銘を受けました。

新しい試みの一つは、講演ハンズオンセミナーです。術中ナビゲーションや AR(拡張現実)などの新技術が臨床の場に導入される中、実際に体験する機会は限られていると考え、講師の解説の後、参加者皆様に実際の手技を体験していただくセミナーとしました。講師には、本分野における日本のトップランナーである藤原靖先生(広島市立北部医療センター整形外科・顕微鏡脊椎脊髄センター主任部長)と吉井俊貴先生(東京科学大学整形外科学講座主任教授)をお迎えしました。藤原先生は顕微鏡手術の第一人者であり、顕微鏡 AR ナビゲーションや 3D 外視鏡、内蔵内視鏡を取り入れており、3D 大画面に映し出される映像から技術の進化を実感しました。吉井先生には、ナビゲーションシステムと顕微鏡をリンクさせた AR 技術(Micro link) やスマートグラスを用いたマルチディスプレイシステムについてご紹介いただきました。企業の方々の協力により、モデルボーンと各システムが正確にリンクし、多くの参加者が貴重な体験を得ることができました。



もう一つの試みとして、メディカルスタッフセミナーを開催しました。埼玉県では脊椎手術に関わる手術室ナースや放射線技師をはじめとしたメディカルスタッフの情報交換の場として「埼玉県脊椎手術を学ぶ会」を開催しており、参加者も100名を超える人気の会となっております。この流れを本研究会にも取り入れました。埼玉県を代表する5つの施設(北里大学メディカルセンター、熊谷総合病院、埼玉医科大学病院、獨協医科大学埼玉医療センター、済生会川口総合病院)の手術室看護師に登壇していただきました。テーマは「脊椎手術における皮膚トラブル0を目指して」とし、斎藤亘先生(北里大学メディカルセンター医学部整形外科准教授)の座長の下、各施設の対策や工夫点を披露していただきました。参加者同士の活発な意見交換が行われ、今後の脊椎手術の質向上に寄与する貴重な機会となりました。

本会の締めのお言葉を大下優介先生(昭和大学横浜市北部病院整形外科准教授)からいただき、無事に閉会となりました。次回、第20回関東MIST研究会は工藤理史先生(昭和医科大学整形外科学講座教授)を当番世話人として、2025年2月22日に開催される予定です。皆様と再びお会いできることを心待ちにしております。



第19回関東MIST研究会
当番世話人(会長)新井 嘉容
(埼玉県済生会川口総合病院 副院長・整形外科主任部長)
事務局 坂井顕一郎
(埼玉県済生会川口総合病院 整形外科部長)